

沖縄県ハンドボール協会 スポーツインテグリティ研修会 (2023・3・5②)

本日は研修会にご参加頂きありがとうございました。皆さんの「私は、いま、こう思う」を個人が特定できないように加工して一覧にしています。研修会内で「自分の価値観」を言葉にし、ペアディスカッションで「他人の価値観」を知り、この振り返り Paper で同じ研修会内での仲間の「多様な価値観」を学ぶことに繋げてもらえればよいと思います。

しっかりと子供達と向き合っ、体罰、暴言をしないで良い指導の仕方を勉強したいと思います。指導者として、常に勉強し続けていきたい、思いました。

この研修は、役に立った。ダブルゴール、結局は、与えられた環境で、頑張るだけ、自分らしくと考えました。もっと気をつけます！

私になりたい指導者は、コーチングを受けた選手がコーチになりたい、コーチはカッコいいと思える指導者であり、選手らがハンドボールをする人から、支える人になりたいとまで思ってもらえるような指導者です。選手らが幸せだと思われ続けられる競技である為にもコーチとして、人としても学び続けたいと思いました。受けた恩は下の世代へ繋いでいきます。

体罰や暴言はあってはならないと今でも思います。もし、自分の子供がそういった場面に陥ったらと考えると恐怖を感じます。だからこそ、スポーツを通して人間性や人との関わり方等の伝え方というのはとても大切だと感じました。

時代の流れによって常識が、非常識になっている。自分が経験した事が正しいのではなく、子ども達にあったレベルの指導(自分の考えだけでなく)保護者との連携を通して目標や練習などを通して、楽しさ、喜び、厳しさを共に共有できるようになりたいと思いました。今の自分は…!!どのように見えているのだろう!!違う面から見直せるようになり、言動一貫した指導を保護者などと連携して行って行けるようにしたいと思いました。本日はありがとうございました。

今外部コーチをして3年目になりますが、指導の仕方を改めて見直さないといけないと感じる講習会でした。勝たせてあげたいという気持ちだけが先走ってしまい、言い方が暴言になってしまったり、生徒の中には傷ついている子もいるかもしれないと思うと辛い気持ちになってしまいました。これからどういう指導をしないといけないのか、改めて考えていきたいと思います。私は生徒一人一人が私に教えてもらって良かったと思えるコーチになりたいと思います。指導者としての責任を持ち、これからの自分を見直しながらコーチとして取り組んでいきたいと思います。本日はありがとうございました。

現代の学校現場などでは、よく耳にしますが「指導者も学ばなければならない」という言葉がありますが、改めてその大切さを実感しました。中には重たい内容の話もありましたが、現実には起こっていることを知ることで自分自身の指導方法や生徒の関わり方を見つめ直す機会になりました。また、プレイヤーズ・センタードという初めて聞く言葉もあり、それを実行するために自分ほどのような言動を取るべきか、考えながら、時には受講者と話しながら、考えや思いを共有できたことは本当に良かったです。改めてハンドボールを通した子どもたちの人格形成を担うという立場に責任を持って、これからの指導に務めていきたいと思いました。本日はありがとうございました。

目先の指導ではなく、生徒の将来を想像しながら生徒と向き合っていこうと思いました。体罰・暴言が部活動からなくなる為に、周りの環境作りが必要だと改めて感じました。先輩・後輩関係なく、度が強すぎる指導に関して、意見を言い

合える様な環境作りに努めていきたいと思ひます。このような研修を開いていただきありがとうございます。

体罰、暴言を吐かない、と言うことは当たり前にもこれまでも指導者として行なってきたつもりですが、同僚に対しおかしいと思つたことには声をあげる、と言うことはできていなかったな、と振り返つてしまいます。本日の講義の中で脳の萎縮の話をして、これからは勇気で防ぐということをして、感じました。また社会は常々変化しているため、その時代に求められる指導者になれるよう、これからも学び続けるとともにハンドボールをやって楽しかった！よかった！と思えるような生徒を育てられることを目標に生徒と関わつていきたいと思ひました。

時代の変化に合わせた指導の必要性を非常に感じました。現在監督として指導に当たつている中で、なかなか上手くいかないことが多々ある中で、私自身が伝え方のバリエーションやコミュニケーションの取り方などを増やしていかなければいけないと感じております。今後も生徒達の立場で物事を考え、生徒一人一人の成長のために学び続けていきたいと思ひます。

暴力は、絶対ダメだがある程度の強い言葉は、必要だと思つていましたが、それは、結果を出すための手っ取り早い方法で自分が楽をしているだけだと言う事に気付かされました。

小学校で指導しています、体罰はありません、暴言は多少あるかもしれませんが、指導に関しては、きつい練習は怠けたりするので、飽きのこない練習を考えて練習するようにしています。

研修ありがとうございます。日々、コーチングしていく中で、沢山の葛藤も感じながらすすめて来ましたが、改めて自身の指導に対して、勉強不足を感じています。こうなりたい指導者像には、子供達と出会つた時から掲げている『地域のおじさん』を目指しております。時には厳しく、時には温かく見守つていける存在でいたいと考えていますので、心の師になれるよう子供にこれからも関わつて行きたいと思ひます。三輪先生ありがとうございます。

体罰をする事はないと思ひます。ただ、誰かが体罰しているのを見た時には、止める事もしないと思ひます。今回の研修を受講して、しないではなく止める行動と無くす行動をうつしていくべきだと感じました。暴言について、怒鳴らなければ良いと思つておりました。口に出す言葉一つが子供たちにとって今後を左右するとなると、どのような声かけをするのか現時点で悩み始めました。「ダブルゴール」ここを目指す指導者になれるように日々、指導に向き合つて行こうと思ひます。

今日の研修会を受講して、自分が過去に指導を受けた指導者が自分の指導の原点になつていた事を考えると、初めて指導したチームには厳しい事やっていたのではないかと、反省します。その後、色々なチームの指導をしながら自分なりに考え勉強しながら、『私は、いま、こう思う』体罰は当たり前だが、暴言にも気をつけて、行きたい。

本日の研修会は、とても有意義なものでした。私はハンドボールの指導者ではありませんが、1 教諭として、考えなければいけないことがあると改めて感じました。今日、心に残つた言葉は「good loser」と、「体罰や暴言を防ぐために勇気を持って防ぐ」という 2 つの言葉でした。絶対に勝者と敗者が生まれる部活動の大会において教諭として勝ちと負けにそれぞれ価値を見出させることは大事だと感じました。また体罰暴言に関して勇気を持つことは本当に勇気のいることです。今までにそういう場面があつたわけではありませんが、振り返つてみると、声をかける必要があつたのかな、と思つておりました。今後は今日学んだことを活かして、これから勇気を持っていこうと思ひました。本日は研修会を実施していただきありがとうございます。

初めに出てきた good loser という言葉についての話の中で、私は負けた時にもっとこういう指導をすれば良かった、あの練習をしておけば良かった、と自分の反省からしてしまうことに気がつきました。まず初めに相手を讃える、ということができていなかったのも、これからはそれを実践し、選手たちにその姿を見せていきたいと思いました。現在中学生の顧問として指導しているのですが、『「人間力の育成」と「競技力の向上」は相補的な関係になれない』という言葉がとても印象に残りました。人として成長させようと指導すると、ハンドボールの技術や結果は後回しになってしまい、選手の「勝ちたい」という気持ちを優先できていないのではないかと、いつも考えていました。今回の講習で両立させていくのは難しい、と聞いて、その時の状況に応じて、バランス良く指導していくことが大切なのかな、と考えさせられました。今回の講習会のお話を指導に生かし、選手が自分たちで立てた目標を達成して充実感を感じられ、大人になってもハンドボールを好きでいてくれるような指導ができる指導者になりたいです。本日はありがとうございました。

時代が変わったことを痛感した。体罰はドーピングという言葉が心に刺さった。体罰は絶対悪だが、多様な子どもたち、多様な親との接し方が、非常に難しい。指導者へのバッシングは取り上げられるが、指導者を守る方策も考えてもらいたい。